

## 私の父

香川県 香南小学校 6年 太田 樹季

夏休みに広島に家族旅行に行った時のことです。私は両親と弟と4人で、広島の実原爆ドームに行きました。

原爆資料館の中を見学して、外に出ました。夏休みなので、たくさんの方が原爆ドームを訪れていました。中には外国の方もたくさんいました。

そのとき、私たちと同じ4人の外国人の家族を見かけました。髪は金髪で目が青く、欧米の人なのでしょう。小学校低学年と幼稚園ぐらいの二人の男の子がいました。若くてやさしそうなお父さんらしい人が、カメラを持ってきょろきょろしています。きっと、日本に旅行に来た思い出の家族写真を撮ろうとしているのでしょう。

私は学校で外国語を習っています。外国語の時間が大好きです。英語で友だちやALTの先生と会話をしたり、世界のいろいろな国のことを知ることができるからです。一学期には総合で、いろいろな国のことを調べて発表しました。

でも、カメラを持って、(だれか写真を撮ってくれないかなあ)と思っていることが明らかにわかるこの外国人の家族に、私は話しかけることができませんでした。

(どうしようかなあ、周りの人が見ているし、恥ずかしいなあ。教室では自信をもって話せるのだけれど……) などとっていました。

すると、その家族にずっと近寄って、

「撮りましょうか。」

と声をかけ、写真を撮ってあげている人がいました。それが、なんと私の父だったのです。私はびっくりしました。外国人のお父さんは、

「アリガトウ、ゴザイマス。」

と、笑顔でお礼を言って、原爆資料館の中に入っていました。父もうれしそうです。

「お父さん、すごいよ。知らない外国の人に話しかけるのは、恥ずかしくないの。」と聞いてみました。すると父は、

「困っている人がいたら、日本人だろうが外国人だろうが、関係なく手助けしてあげたいんだよ。それに、自分の国じゃないところに来たら、周りは外国人だらけで、きっと不安だったんじゃないのかな。日本語でお礼を言われたときは、よいことをしたなと思ったよ。それにしても、写真を撮ってあげられて本当によかったよ。」

と話してくれました。

私はとても誇らしい気持ちになりました。母や弟もうれしそうです。きっとあの外国人の家族も、よい写真とよい日本の思い出ができたと思います。

私は、親切をするのは勇気がいるのだなあと思いました。でも、困っている人がいたら、ためらわず進んで声をかけたい、父を見習っていきたいです。私も勇気を出して親切ができる人になりたいと思います。